University of the Ryukyus Library Bulletin　Vol.27 No.3(No.103)　July 1994

行間・字間・音間

医学部分館長　　平田幸男

最近、学会発表の際の予稿集や抄録では、発表者がワープロなどを用いて印刷した紙面が、そのまま版下として使われて印刷発行されることが多くなってきました。理科系の学会に多い現象で、文科系のそれについても同じような傾向にあるのかどうかは、残念ながら不勉強で分かりません。このように発表者が直接レイアウトした印刷紙面を見ていると、大変読みにくいというか、すんなりと、目に、そして頭に入ってきにくいものがしばしばあります。なぜそのように感じるのか。私なりに、分析をしてみました。

原稿用紙に書き込まれたもしくはテキストファイルとして磁気ディスクに記録された内容を、編集者が割り付け、活字の指定などを行い、印刷所が活字を組んで校正刷りができ、校正を繰り返して最終的に印刷されるという、これまでの伝統的な本作りの手順による紙面とくらべて、著者の手作りの印刷紙面では、プリンターのハード的な制約から、活字自体があまり美しくないのは致し方ないとしても、字間・行間への配慮が、ほとんど伺われないものがしばしば見受けられます。たとえば、現在の日本語の活字書体はほとんどすべて指定サイズが同じであ

目次

行間・字間・音間 …… 1
図書館に関するアンケート調査票（教官用）の集計結果について …… 4
図書館事務組織の変更について …… 16
お知らせ …… 16
沖縄関係資料新着案内 …… 17
本学教官著作寄贈図書案内 …… 19
図書館事情 …… 20
医学部分館だより …… 22

れば字幅がすべて同じモノスペースドフォントですから、行間が狭いと、横書きの紙面で縦方向にも活字が揃ってしまい、内容を読まないと一見縦書きの文章に見えることさえあるのです。(この場合、日本語のなかに、プロポーショナルフォントのアルファベットが入ると、字間の規則性が避けられ、すこしは読み易くなります。)

読む者に想像力を翔かせ、精神の遊びを可能にする場としての余白、また著者と読者との相互作用もしくは対話の記録としての書き込みを可能にする物理的余白をもった媒体をマクルーハンは'冷たい'メディア、とし、これに対し読み手に想像力や解釈の余裕を与えずに、一方的に伝えるだけのそれを'熱い'メディアとしていますが、行間が適切でない印刷面は、冷たいメディアの要素が少なく、このことからくる圧迫感が読み難さのもうひとつの原因となっているのかもしれません。

しかし、受け取る側に幅ひろい解釈や想像力を許す行間・余白を配置した紙面であったとしても、その空間を充分意味のあるものにするためには、印刷された文字列が、そこに飛翔するエネルギーを読むものに与えるだけの力を持っていなければ、そのような文章の行間は、ただの隙間でしかないでしょう。しばらく前ですが、この空間を特に重視してのことかどうか、右ページを完全な空白とし左側奇数ページにのみ印刷をした本(平出隆「左手日記例言」白水社)を読みました。著者の意図があまりよく分かりませんが、少なくとも私には、それだけの空間を必要とする文章であるとは思えませんでした。

積極的に書き手から読み手へと伝えられる'熱いメディア'の要素と、行間、余白といった、'冷たいメディア'のそれとの割合が、書き手本人によって決められる学会抄録や予稿集の場合を上に書きましたが、近頃試みられることの多くなった、電子出版、電子本といった媒体の場合、今度は、読み手の側が、このメディアの熱さを、ある程度、自由に変えることが出来るという点で、これまで編集者が本作りで果たしてきた役割の一部が、今度は読者の手に任されることになります。読む者は、文章の行間、余白、さらには、活字の大きさ、種類を、好みにあわせて変えることが出来るというわけです。今の所、このような形式の出版はまだ数が少なく、この先、これが、どのように展開していくのかは簡単には予想できないのですが。いずれにしても、文字媒体を通して表現する際に、著者自身が、さらには読者が、これまでの編集者の仕事の一部又は全部をも担うことは増えてきそうです。

このような時代の流れを感じますと、いま盛んに叫ばれている大学における表現の技術の教育の重要性について考えるとき、従来の表現技術とともに、表現の媒体に特有な編集技術の教育の必要性も考慮に入れてよいのではないでしょうか。

文字情報での、行間や余白の重要性について考えて来ましたが、音声媒体についても、同様なことが云えそうです。音(群)と音(群)との間の空白、さらに、フレーズとフレーズとの間の微妙な間、これらは、文字媒体の場合のように余白、空白として見える形で存在するものではないのですが、文字情報における空白と同様に重要なものです。話し言葉にしても音楽にしても、余白、空白に乏しいそれらには、なかなか馴染めないうえに、文字情報と違って、受け止める側に、余白、空白を加工することがほとんど拒否されているために、むしろ欝陶しさ、ときには苛立たしさを感じます。

私は、母の胎内にいるときから日本の音楽に曝されて育ちました。それででしょうか義太夫、長唄、小唄などでの音と空白との時間的配置、それも規則的でなく揺れ動く'間'、が身に染み込んでいるせいか、西欧の音楽の、といっても小節というものが楽譜の上でも明瞭に記されるようになったバロック期から古典派にかけてのものについてですが、極めて規則的に区切られた1個1個の音や小節の時間的区分が仲々身につきません。学生のときから長いことオーケストラや小人数のアンサンブルで奏ってはいますが、均等な長さの音を正確に刻む、または繰り

返すことが、殊の外にが手です。

邦楽では、音の時間的レイアウトまたは'間'はインド、ヨーロッパの音楽のそれとは、大分様相が違います。規則的なリズム、繰り返しは、日本の音楽とくに琴曲、三味線音楽、尺八では、むしろ避けられ、不規則性、さらには、楽器と声の拍子の、微妙なずれが好まれます。拍の伸縮も大きいし、それに、音のない空白の時間＝間が、全体の曲なり、作品の重要な要素なのです。しかし、その空白は完全な空白であるとは限らず、しばしば、かけ声という、主として旋律や拍を構成していた音とは異質の音で微妙に仕切られます。

このような音声媒体における'間'の感覚の特異性は、音楽に限らず、言葉についても云えそうです。それぞれの言語の系に特有の'間'なり音の仕切りが存在し、母国語の'間'の修得は、人の生後発達の極めて早い時期に起きることが最近の研究でわかりました。話されたことばから400ヘルツ以上の高さの音を消しとって聞きますと、個々の単語そして音節の表音的要素がほとんど聞き取れなくなり、それ以外の大まかな特性、リズムや'間'と旋律の一部すなわち韻律しか分からないものになりますが、生後４日の新生児にそのような音だけを聞かせると、その児は幾つかの言語を識別出来るそうです。ところが、生後２カ月を過ぎると、この児は母国語とそれ以外の言語とのあいだをはっきりと区別しましたが、生後４日では出来た、母国語以外の複数の言語の間の識別が、不可能になったといいます。恐らくこのようなことは、言語以外の音列についても云えるのではないかと思われます。すなわち、最初に聞き慣れた、いわば、'母'音楽に対する馴染みは、他の系の音列に対しての識別能力を低下させるのではあるまいかと。私の場合のように、生まれた時から邦楽の'間'の産湯に浸かってたようなものが、なかなか他の音列、音楽のリズムを区別し、それに'ノル'ことが出来ないのは、当然のことなのかもしれません。もっとも、近頃のように、母親のお腹のなかにいるうちからロックのリズムにのっていれば、話はこんどは逆になり、邦楽の'間'に馴染めないひとびとが多くなってきそうです。

さて、話を印刷されたもしくはモニター画面に表れる文字列に戻して、そこでの行間や余白、空白についてもう一度考えてみます。私たちが、もっとも慣れ親しんでいる漢字混じり仮名という日本語の文字列は、他の文字列、たとえば、アルファベットだけの多くの西欧語の文、漢字もしくはハングルだけのそれと比べて、また日本語でも仮名だけで表記されたかげろう日記というようなものと較べてみると、黒く印刷された線もしくは字画の空間密度の濃淡の対比が目立ち、またそれが規則的とはいえない流れのリズムをもっているという、ほかの言葉の文字列には見られぬ特徴をもったもののようです。

最近、日本語の文章がワープロを用いて作られるようになり、漢字変換が容易になったためか、画数が多く、手書きでは苦労するような漢字が無造作に多く使われる傾向がありますが、この結果むしろ文章が読み難くなったように思えます。これは、おそらく、適切でない行間、余白に加えて、文字列の線画の平均的密度が高くなり、そして濃淡のゆらぎがわれわれが慣れ親しんできた目で読む日本語のリズムとはいささか違ってきていることによるのではないでしょうか。

紀貫之の言葉を借りて云えば、'言葉余りて心たらず'、の文字列より、'こころ余りて言葉足りず'、行間、余白に余るこころを托した、そして文字列の濃淡の密度が心地よく揺らぐ紙面、画面のほうが私には好ましいように思えます。

（ひらた　ゆきお：解剖学教授）

図書館に関するアンケート調査票（教官用）の集計結果について

附属図書館では学生と教官を対象にし、質問内容を部分的にそれぞれ独自のものとしたアンケート調査を実施した。既に５年前の平成元年の１１月に学生を対象としたアンケート調査を実施しているが、平成５年度末の建物増築後の書庫及び閲覧室の拡充とその他施設環境の向上に伴い、今後の図書館サービスや運営を見直す契機ともなることから、学生だけでなく教官にも対象を広げ、図書館の利用や蔵書の充実度、施設環境等できるだけ広範囲にわたる調査を行うこととした。調査は学生には平成６年１月１７日（月）から２１日（金）までの間に千原キャンパスの本館と医学部キャンパスの分館（以下、「医分館」とする。）に来館時に入口でアンケート用紙を手渡し、退館時に出口で回収する方法で行い、教官にはアンケート用紙を１月１７日（月）から送付し、３１日（月）までに回収する方法で行った。有効回収率は学生が本館60.5%、医分館73.1%で、教官が本館31.5%、医分館40.1%であった。集計結果を本号と次号の２回に分けて報告することにし、本号では教官を対象としたアンケートについてのみ行う。

A．集計結果の見方等

今回の教官に対するアンケートの回答結果を学部別にみると以下のようになる。

学　部	配布数	回答数	回答率
法文学部	101 人	25 人	24.8%
教育学部	106 人	33 人	31.1%
理学部	66 人	31 人	47.0%
農学部	81 人	23 人	28.4%
工学部	89 人	34 人	38.2%
教養部	69 人	18 人	26.1%
医学部	361 人	145 人	40.1%

以下、各質問についての集計は本館と医分館とに分けて行っている。本館分としてまとめたのは上記の法文学部から教養部までの回答数で、医分館分は医学部の回答数のみである。

○回答の集計方法

集計は以下のように本館と医分館とに分けて行っている。

【質問１の回答】

	a.	b.	c.	d.	e.	f.	g.
本館	25	33	31	0	23	34	18
	15.2%	20.1%	18.9%	0.0%	14.0%	20.7%	11.0%
医分館	0	0	0	145	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	h.	未回答	合計	
本館	0	0	164	→ 回答者数
	0.0%	0.0%		→ 合計に対する比率
医分館	0	0	145	→ 回答者数
	0.0%	0.0%		→ 合計に対する比率

各質問についての集計結果は、このような数値では容易に理解しにくいため、図示化することとし、ほとんどをグラフで表している。また、目盛りあるいは数値は特にことわらないかぎり百分率である。

質問２６については、本館については内訳として学部毎に集計したものと本館全体を合計したものをグラフ化し、医分館のグラフと比較する方法をとっている。

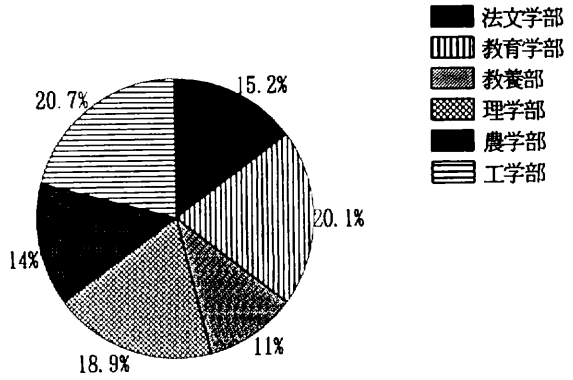
B．質問と集計結果

１．所属は次のどれに該当しますか。

a. 法文学部　b. 教育学部　c. 理学部　d. 医学部
e. 農学部　f. 工学部　g. 教養部　h. その他

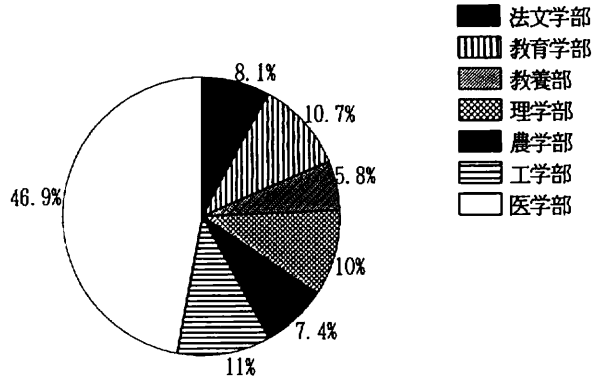
集計結果のうち本館分を円グラフで示すとグラフ 1-1のようになる。また、医分館分も含めたすべてのデータによる比率を表すとグラフ 1-2となる。

【本館】



グラフ 1-1

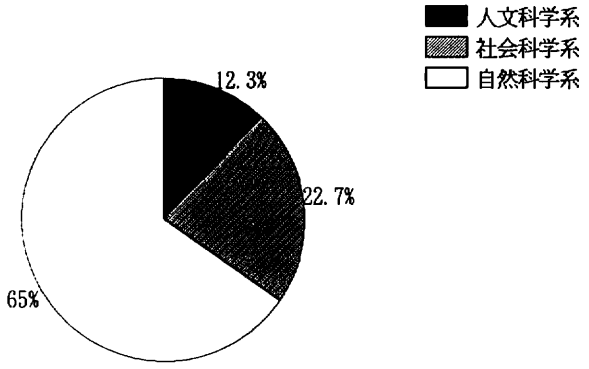
【全体】



グラフ 1-2

2．学問領域、専門分野は次のどれに該当しますか。
　a. 人文科学系　b. 社会科学系　c. 自然科学系

本館の分野別比率はグラフ 2 のようになる。

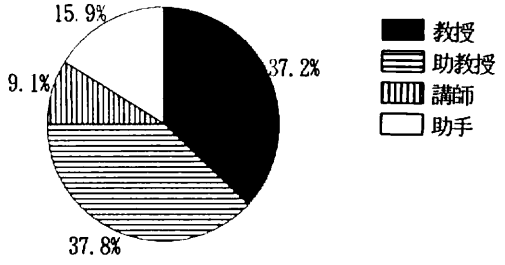


グラフ 2

医分館では92.4%が自然科学系で、人文科学系および社会科学系はそれぞれ0.7%、2.8%となっている。（グラフは省略）

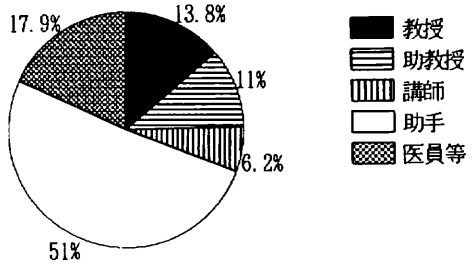
3．職名は次のどれに該当しますか。
　a. 教授　b. 助教授　c. 講師　d. 助手
　e. 医員・研修医

【本館】



グラフ 3-1

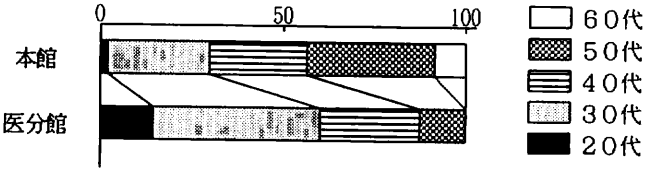
【医分館】



グラフ 3-2

4．年齢は次のどれに該当しますか。
　a. ２０代　b. ３０代　c. ４０代　d. ５０代
　e. ６０代

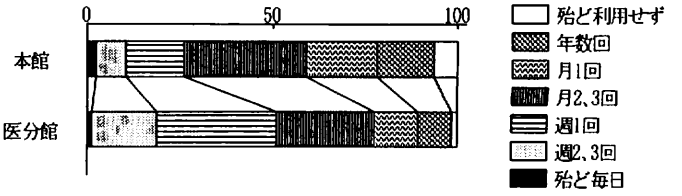
年齢層は医分館のほうが若く、２０代、３０代の合計で60%を占めている。



グラフ 4

5．図書館をどの程度利用していますか。
　a. 殆ど毎日　b. 週に２、３回　c. 週に１回
　d. 月に２、３回　e. 月に１回　f. 年に数回
　g. 殆ど利用しない

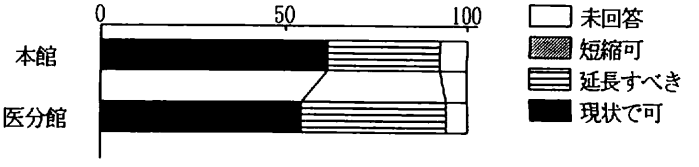
本館では、月に２、３回(32.9%)、月に１回(18.9%)の順になっており、医分館では週に１回(31.7%)、月に２、３回(26.2%)の順になっている。



グラフ 5

6．開館時間についてどう思いますか。
　1）月曜日ー金曜日　a. 現状でよい　b. 延長すべきである　c. 短縮してよい

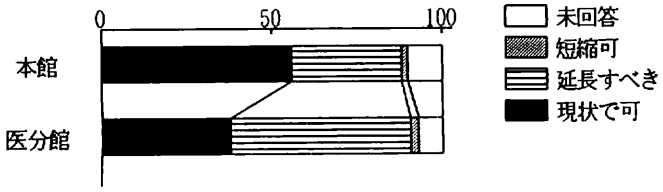
本館では「現状でよい」が61.6%、「延長すべきである」が31.5%となっており、医分館では「現状でよい」が54.5%、「延長すべきである」が40%となっている。



グラフ 6-1

2) 土曜日　　a. 現状でよい　b. 延長すべきである　c. 短縮してよい

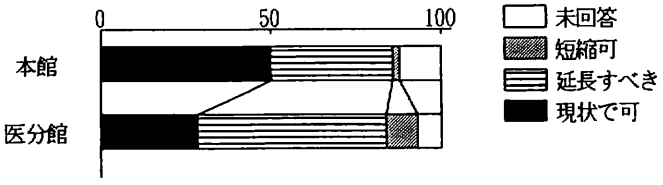
本館では「現状でよい」が56.1%、「延長すべきである」が32.3%となっており、医分館では「延長すべき」が53.1%で「現状でよい」が37.9%と順位が逆となっている。



グラフ 6-2

3) 夏休み等の休業期　a. 現状でよい　b. 延長すべきである　c. 短縮してよい

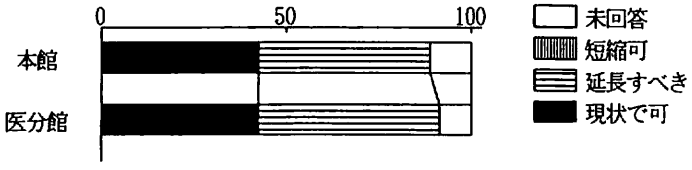
本館では50%が「現状でよい」と答えているが、医分館では55.9%が「延長すべきである」と答えている。



グラフ 6-3

4) 書庫の利用時間　a. 現状でよい　b. 延長すべきである　c. 短縮してよい

本館、医分館とも「延長すべきである」が多く、それぞれ46.3%、49%を占めている。



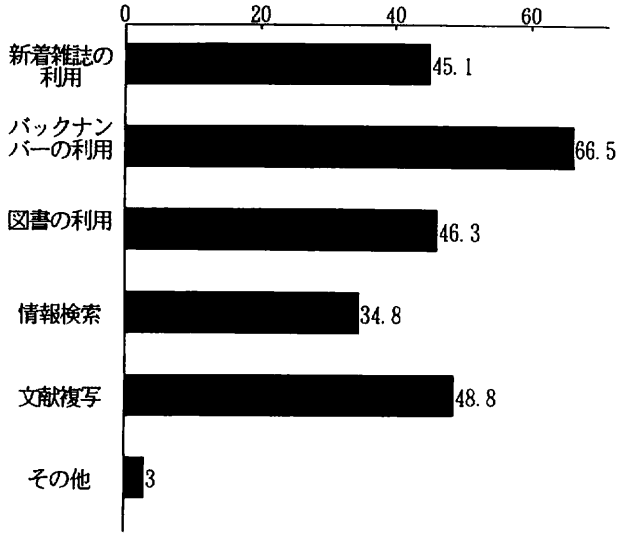
グラフ 6-4

7．図書館を利用する主な目的は何ですか。（複数回答可）
　a. 新着雑誌の利用　b. バックナンバーの利用
　c. 図書の利用　d. 情報検索　e. 文献複写
　f. その他

本館では「バックナンバーの利用」、「文献複写」、「図書の利用」の順になっており、医分館では「新着雑誌の利用」、「情報検索」、「バックナンバーの利用」の順となっている。

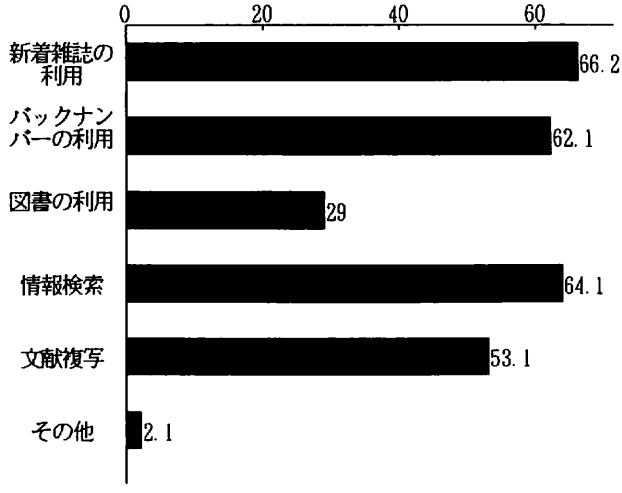
利用の「その他」には、本館では「他大学図書（資料）」、「新聞」、「郷土資料」、「VIDEO」、「専門誌複写」があり、医分館では「ゼミ室の利用」、「current contentsの利用」、「文献検索」、「教育・研究・臨床上の必要から」というのがあった。

【本館】



グラフ 7-1

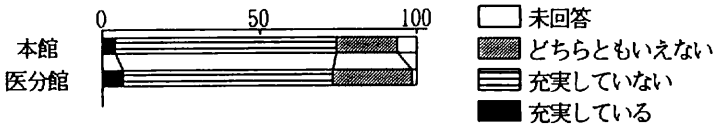
【医分館】



グラフ 7-2

8．大学図書館として必要な資料は充実していると思いますか。
　1) 専門図書　　a. 充実している　b. 充実していない
　　c. どちらともいえない

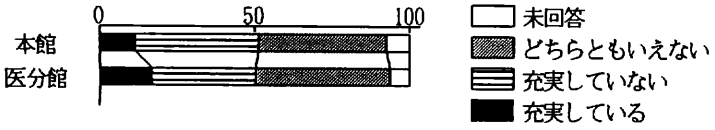
本館、医分館とも「充実していない」が圧倒的に多く、それぞれ70.1%、66.2%を占めている。



グラフ 8-1

2) 参考図書（辞典、事典、年鑑など）
a. 充実している　b. 充実していない
c. どちらともいえない

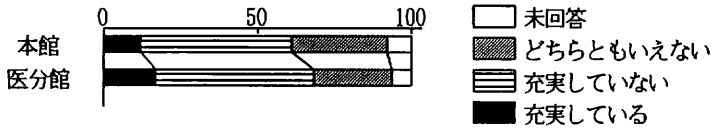
本館は「どちらとも言えない」(41.5%)、「充実していない」(39.6%)の順で、医分館も「どちらとも言えない」(43.4%)、「充実していない」(33.1%)の順で同じである。



グラフ 8-2

3) 新着雑誌　a. 充実している　b. 充実していない
c. どちらともいえない

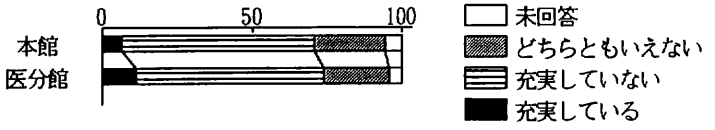
本館、医分館とも「充実していない」がかなり多く、それぞれ48.8%、51%を占めている。



グラフ 8-3

4) 雑誌バックナンバー
a. 充実している　b. 充実していない
c. どちらともいえない

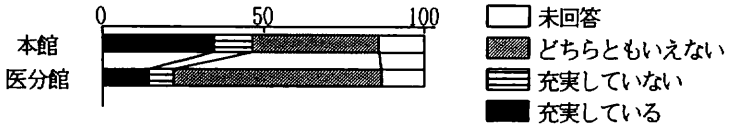
本館、医分館とも「充実していない」が圧倒的に多く、それぞれ64%、62.1%を占めている。



グラフ 8-4

5) 沖縄関係資料
a. 充実している　b. 充実していない
c. どちらともいえない

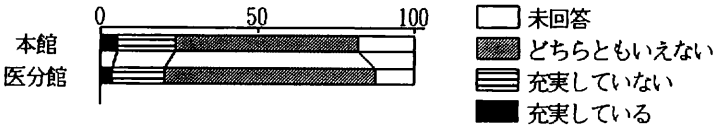
本館、医分館とも「充実している」が「充実していない」を上回っており、それぞれ 本館 a. 34.8%, b. 11.6%、医分館 a. 14.5%, b. 7.6%となっている。



グラフ 8-5

6) 国際関係資料（国連，ＥＣ、アジア資料など）
a. 充実している　b. 充実していない
c. どちらともいえない

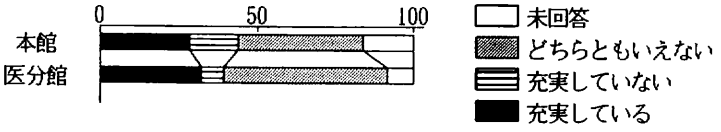
本館、医分館とも「どちらともいえない」と「未回答」を合計した分が75%を越えている。この数値から推測すると国際関係資料に対しての関心の度合いは低いと思われる。



グラフ 8-6

7) 新聞　a. 充実している　b. 充実していない
c. どちらともいえない

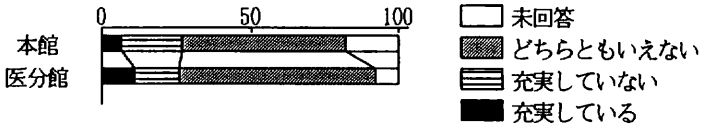
本館、医分館とも３割近くの人が「充実している」と答えている。また、「充実していない」と答えた人は1.5割以下である。



グラフ 8-7

8) 視聴覚資料　a. 充実している　b. 充実していない
c. どちらともいえない

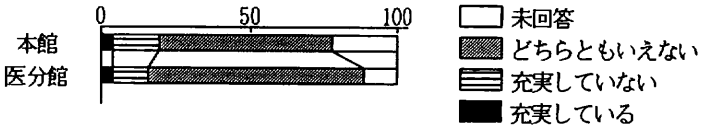
「充実している」と答えた人は本館が6.7%、医分館が11%と少ない。



グラフ 8-8

9) マイクロフイルム資料
a. 充実している　b. 充実していない
c. どちらともいえない

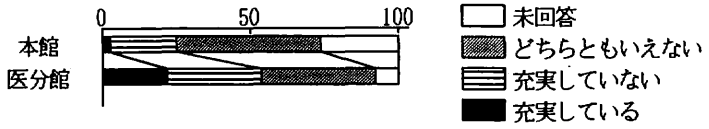
「充実している」と答えた人は本館、医分館とも約4%とかなり少ない。



グラフ 8-9

10) ＣＤ－ＲＯＭ　a. 充実している　b. 充実していない
c. どちらともいえない

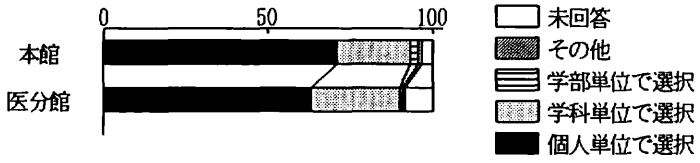
「充実している」と答えた人が本館は3%であるのに対し、医分館は22.1%とかなり開きがある。これは、医分館ではMedlineのＣＤ－ＲＯＭがよく利用されているためと思われる。



グラフ 8-10

９．図書館備付け学生及び大学院生用図書の選書（教官選書）はどのような方法が適当と考えますか。
a. 個人単位で選択する（現行方式）　b. 学科単位で選択する　c. 学部単位で選択する　d. その他

本館では「個人単位」が71.3%、「学科単位」が22%、医分館では「個人単位」が63.4%、「学科単位」が31.7%を占めている。
「その他」には、本館では「取り混ぜる方式」、「学科・学部と二重にする」、「図書館が作成したリストから選択」というのがあり、医分館では「（どのような方法がよいか）わからない」というのがあった。

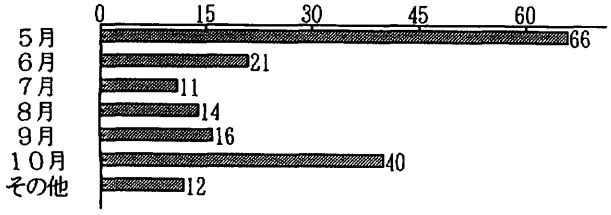


グラフ 9

１０．上記を実施する時期は何月が適当ですか。（複数回答可）
a. ５月　b. ６月　c. ７月　d. ８月　e. ９月
f. １０月　g. その他

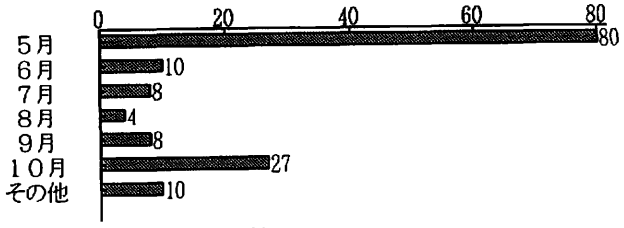
本館、医分館とも「５月」、「１０月」、「６月」の順となっている。（グラフの数値は人数を示している）
「その他」には、本館では「随時」(3人)、「いつでもよい」(3人)、「３月」(2人)、「複数回/年」、「年最低２回」、「予算決定時」、「４月から利用可能になるようにしてもっと遅い時期（例えば、１０月選書で４月から使えるなら１０月）」などがあり、医分館では「２月」(3人)、「１月」(2人)、「３月」(2人)、「４月」(2人)、「１２月」(2人)、「いつでも可」(2人)などがあった。

【本館】



グラフ 10-1

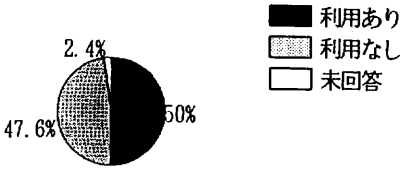
【医分館】



グラフ 10-2

１１．指定図書制度を利用したことがありますか。（医学部所属の方は除く）
a. 利用したことがある　b. 利用したことはない

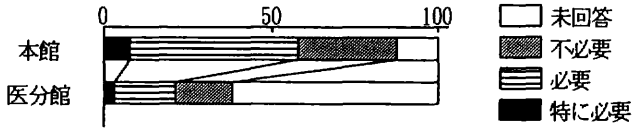
本館のみの質問であるが、「利用したことがある」が50%、「利用したことがない」が47.6%とほぼ同数になっている。



グラフ 11

１２．指定図書制度は必要と思いますか。
a. 特に必要である　b. 必要である　c. 必要でない

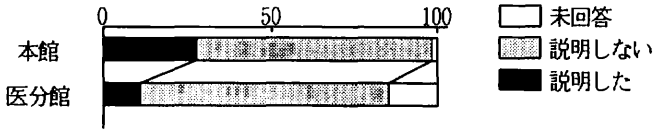
「特に必要」と「必要」を合わせた数が、本館では57.9%であるのに対し、医分館では21.3%と半分以下となっている。



グラフ 12

１３．二次資料（索引誌、抄録誌など）の使い方や情報検索について授業の中で説明したことがありますか。
a. 説明したことがある　b. 説明したことはない

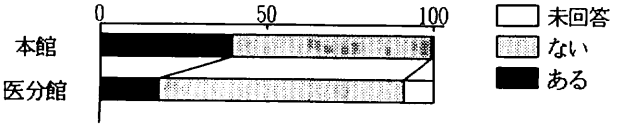
「説明したことがある」と答えたのが、本館では28%で、医分館では11%となっている。



グラフ 13

１４．図書館の利用について学生に対するオリエンテーションを行ったことがありますか。
a. ある　b. ない

「ある」と答えたのが、本館では39.6%で、医分館では17.9%となっている。



グラフ 14

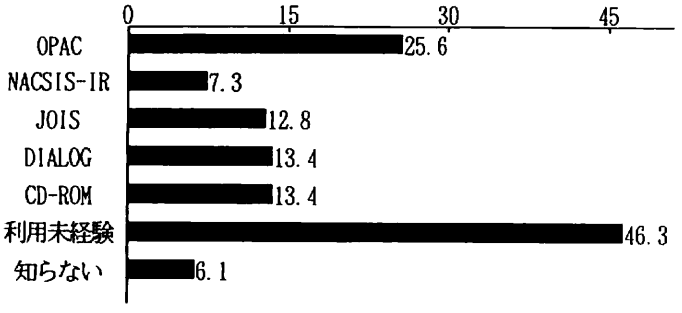
１５．図書館で次の情報検索サービスを利用したことがありますか。（複数回答可）

a. ＯＰＡＣ（オンライン目録） b. ＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ
c. ＪＯＩＳ d. ＤＩＡＬＯＧ e. ＣＤ－ＲＯＭ
f. 利用したことがない g. あることを知らなかった

本館では、情報検索サービスを利用したことがない人が46.3%もおり、利用についてはＯＰＡＣがよく利用されている他、ＪＯＩＳ、ＤＩＡＬＯＧ、ＣＤ－ＲＯＭが平均的に利用されている。

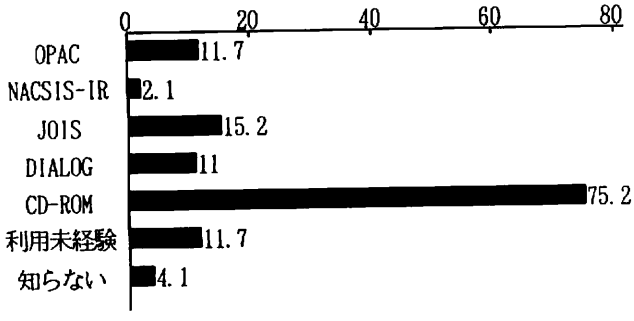
医分館では、ＣＤ－ＲＯＭの利用が75.2%と圧倒的に多くその他はＮＡＣＳＩＳ－ＩＲを除いては10%台の利用となっている。

【本館】



グラフ 15-1

【医分館】



グラフ 15-2

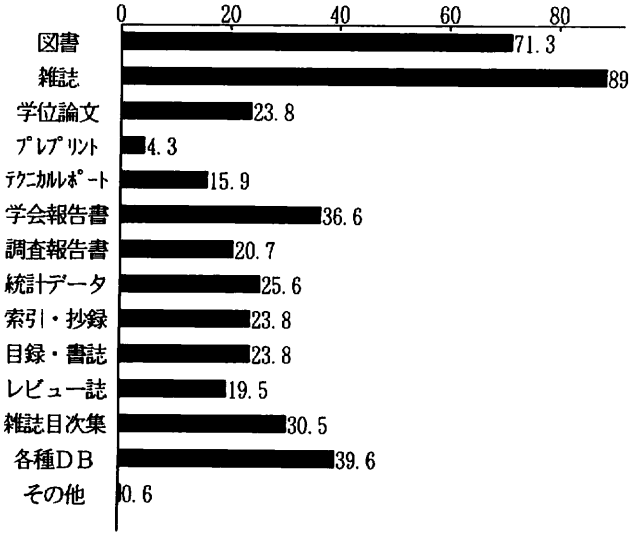
１６．あなたの教育及び研究上で、下記の各情報源の中から重要であると思われるものを選んで下さい。
（複数回答可）

a. 図書 b. 雑誌 c. 学位論文 d. プレプリント
e. テクニカル・レポート f. 学会等の報告書・議事録
g. 調査報告書 h. 統計データ類 i. 索引・抄録類
j. 目録・書誌 k. レビュー誌
l. 雑誌目次集（Current contents等） m. 各種データベース（オンライン・ＣＤ－ＲＯＭ等） n. その他

本館では「雑誌」、「図書」、「各種データベース」の順で重要であると考えているのに対し、医分館では「雑誌」、「各種データベース」、「図書」の順で重要であると考えている。

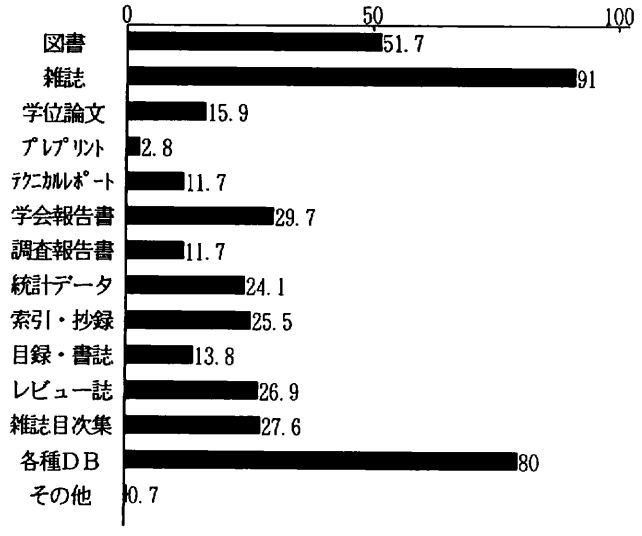
「その他」には、本館では「米国の法令集・判例集」があった。医分館では「その他」を選択したものの無記入となっていた。

【本館】



グラフ 16-1

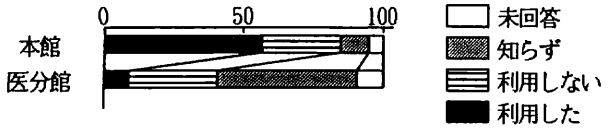
【医分館】



グラフ 16-2

１７．コンテンツ・シート・サービスを利用したことがありますか。
　a. 利用したことがある　b. 利用したことはない
　c. あることを知らなかった

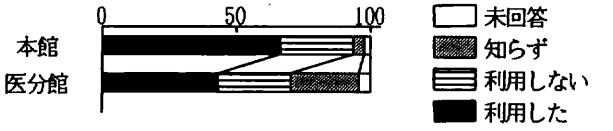
本館では「利用したことがある」が56.7%と半数を超えているのに対し、医分館では「利用したことがある」が9%と少ない上、「あることを知らなかった」が50.3%と非常に多い。



グラフ 17

１８．ＩＬＬ（他機関との文献複写・現物貸借）サービスを利用したことがありますか。
　a. 利用したことがある　b. 利用したことはない
　c. あることを知らなかった

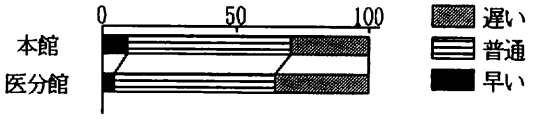
本館では「利用したことがある」が66.5%と多いのに対し、医分館では「利用したことがある」が43.4%で、「あることを知らなかった」も25.5%を占めている。



グラフ 18

１９．ＩＬＬを利用された方へお尋ねします。
　入手までの時間は　　a. 早い　b. 普通　c. 遅い

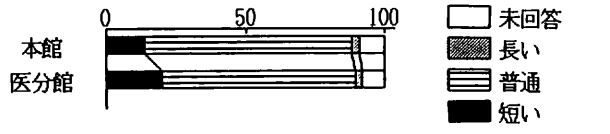
本館では「早い」が9.4%、「普通」が61.3%を占め、医分館では「早い」が4.8%、「普通」が59.7%を占めている。



グラフ 19

２０．カウンター手続き業務（貸出、返却、予約）についてお尋ねします。
　1）貸出に要する時間は　a. 短い　b. 普通　c. 長い

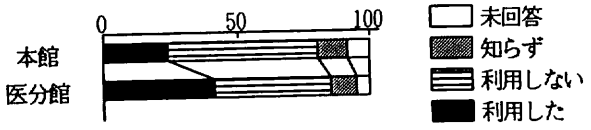
本館では「短い」が14%、「普通」が74.4%を占め、医分館では「短い」が20.7%、「普通」が69%を占めている。



グラフ 20-1

　2）返却ポストを利用したことは
　a. 利用したことがある　b. 利用したことはない
　c. あることを知らなかった

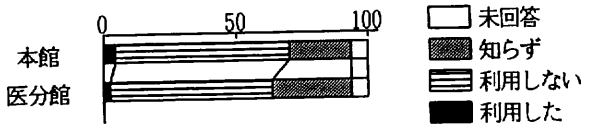
本館では「利用したことがある」が14.4%と少ないが、医分館ではそれが41.4%と多い。



グラフ 20-2

　3）貸出中の図書の予約制度は
　a. 利用したことがある　b. 利用したことはない
　c. あることを知らなかった

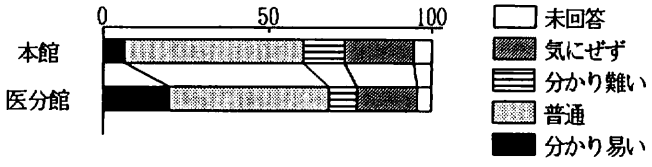
「利用したことがある」が本館は4.9%、医分館は2.9%といずれも少ない。



グラフ 20-3

２１．館内案内（サイン）はわかりやすいですか。
　1）　館内案内図　a. わかりやすい　b. 普通
　　c. わかりにくい　d. 気にしたことはない

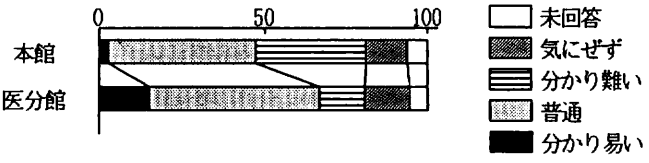
「わかりやすい」が本館では6.7%と少ないが、医分館では20%と多い。



グラフ 21-1

　2）　資料配置図　a. わかりやすい　b. 普通
　　c. わかりにくい　d. 気にしたことはない

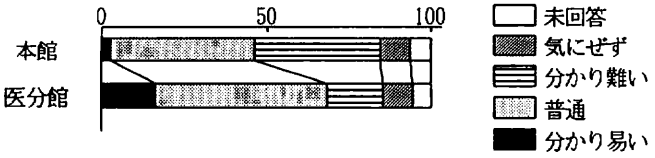
「わかりやすい」が本館では3%であるのに対し、医分館では15.2%と多い。



グラフ 21-2

3） 書架見出し　a. わかりやすい　b. 普通
c. わかりにくい　d. 気にしたことはない

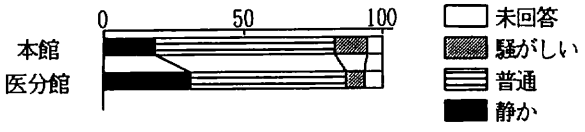
「わかりやすい」が本館では3%であるのに対し、医分館では16.6%と多い。



グラフ 21-3

２２．閲覧室の環境についてお尋ねします。
1）騒音・私語　a. 静か　b. 普通　c. 騒がしい

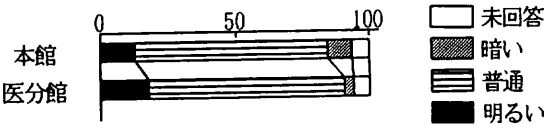
本館では、「静か」が18.3%、「普通」が64.6%、「騒がしい」が11.6%で、医分館では「静か」が31%、「普通」が55.9%、「騒がしい」が6.9%となっている。



グラフ 22-1

2）照明　a. 明るい　b. 普通　c. 暗い

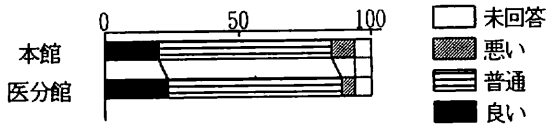
本館では、「明るい」が12.8%、「普通」が72%、「暗い」が9.1%で、医分館では「明るい」が17.9%、「普通」が73.1%、「暗い」が3.4%となっている。



グラフ 22-2

3）空調　a. 良い　b. 普通　c. 悪い

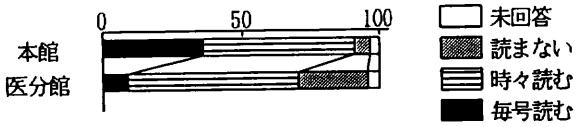
本館では、「良い」が20.1%、「普通」が64.6%、「悪い」が9.1%で、医分館では「良い」が23.4%、「普通」が65.5%、「悪い」が4.8%となっている。



グラフ 22-3

２３．図書館報「びぶりお」は読んでいますか。
a. 毎号読む　b. 時々読む　c. 読んだことがない

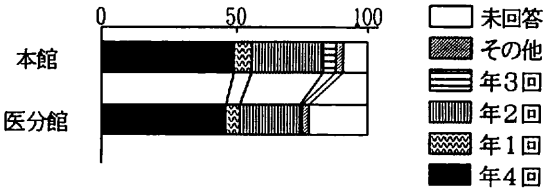
本館では「毎号読む」が36.6%であるのに対し、医分館では9%と少ない。



グラフ 23

２４．図書館報「びぶりお」の発行回数はどの位がいいと思いますか。
a. 年４回（現行）　b. 年１回　c. 年２回
d. 年３回　e. その他

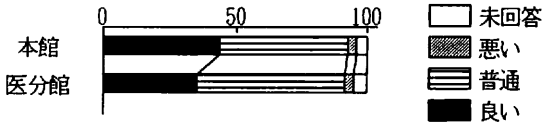
本館では「年４回」(49.4%)、「年２回」(26.8%)順で、医分館では「年４回」(46.2%)、「年２回」(22.8%)の順となっている。
「その他」には、本館では「年６回」、「年２回又は３回」、「ご自由に」、「内容と充実が大事」などがあり、医分館では「季刊」、「いらない」などがあった。



グラフ 24

２５．図書館職員の応接態度についてお尋ねします。
a. 良い　b. 普通　c. 悪い

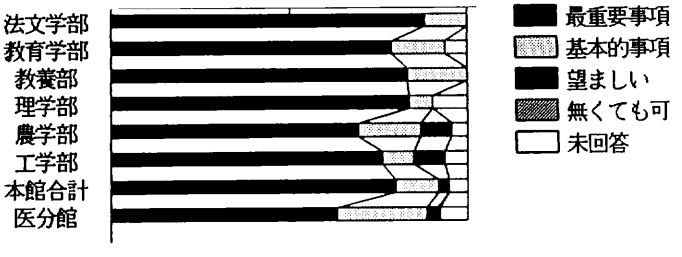
「良い」が本館では43.9%で、医分館では35.2%を占めている。



グラフ 25

２６．大学図書館として、次の各機能・サービスが重要かどうか次の四つのランクに分類して下さい。
A：最も重要なもの、B：基本的なもの、
C：望ましいもの、D：なくてもかまわないもの。
なお、AはBを標準として、その内の特に重要だと考えられるものに絞って下さい。

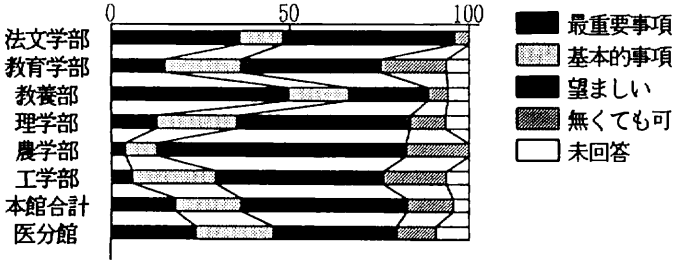
1）基本的な図書・雑誌を備える
Aランクの「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で79.9%、医分館で63.4%を占めている。Bランクの「基本的なもの」と位置づけている人も含めると本館、医分館とも90%超えている。



グラフ 26-1

2）休日でも開館する

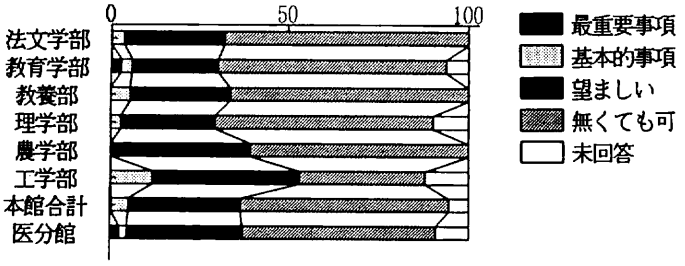
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で18.3%、医分館で24.1%となっている。本館で見ると、教養部で50%、法文学部で36%が「最も重要なもの」と位置づけており、文系の分野の教官のほうが休日開館をより望んでいるように思われる。



グラフ 26-2

3）娯楽的な資料も十分に備える

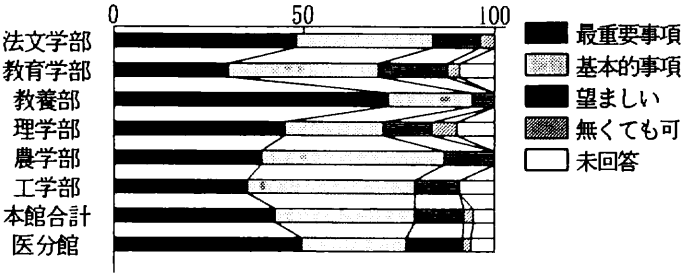
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で0.6%、医分館で2.8%となっている。Cランクの「望ましいもの」まで含めても「本館」で36.6%、医分館で37.3%に留まっており、Dランクの「なくてもかまわないもの」の本館57.9%と医分館53.8%よりはるかに下回っていることから、娯楽的資料を揃えることには、賛成しかねる意見が多い結果となっている。



グラフ 26-3

4）データベース・サービスを行う

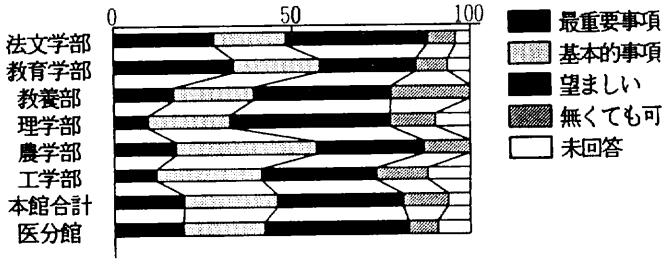
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で42.7%、医分館で49.7%を占めている。グラフ 26-4 では教養部のAランク72.2%が突出しているが、医分館の49.7%はそれに次ぐもので質問7でも情報検索の利用が64.1%を占めていたように医分館の教官のほうがデータベースへの関心は高いと考えられる。



グラフ 26-4

5）特定分野の専門的コレクションを持つ

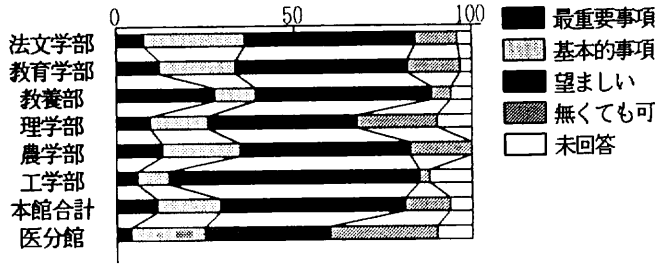
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で19.5%、医分館で19.3%となっている。学部別では「最も重要なもの」に位置づけている人が教育学部(33.3%)、法文学部(28%)の順でこれらより高い比率を占めている。



グラフ 26-5

6）市民にも開放する

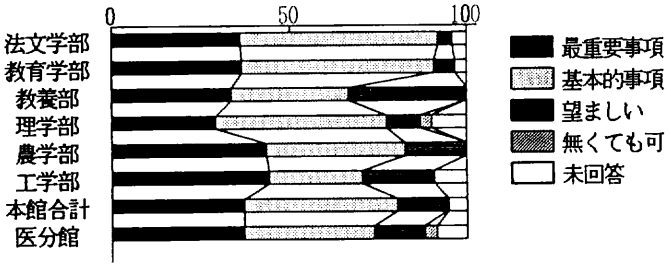
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で11.6%、医分館で4.1%と少ない。「基本的なもの」と位置づけている人を含めても本館29.3%、医分館24.8%と3割以内で、図書館を市民に開放することについては歓迎する声が少ないように思われる。



グラフ 26-6

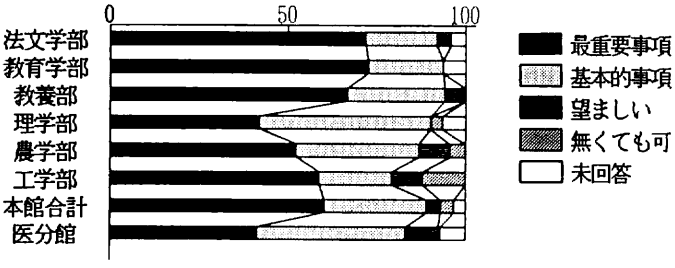
7）文献複写サービスを行う

「最も重要なもの」と位置づけている人が本館、医分館とも37.2%とまったく同比率である。学部別では「最も重要なもの」に位置づけている人がそれと比べて、工学部(44.1%)、農学部(43.5%)の2学部が高く、最低で理学部の29%となっている。数値としては平均的な範囲に収まっており、3～4割の教官が文献複写サービスの重要性を認識している。



グラフ 26-7

8）図書・雑誌の保存を行う

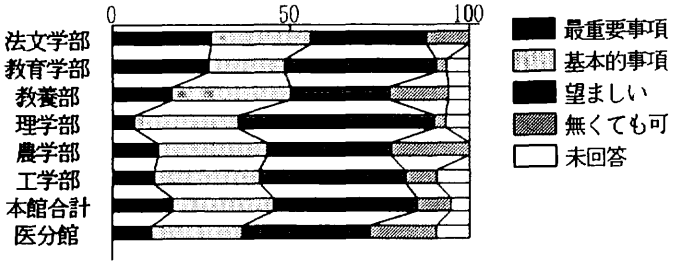


グラフ 26-8

「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で60.4%で、医分館で41.4%と20%近く開いている。特に、本館では教育学部72.7%、法文学部72%、教養部66.7%と高い比率を示しており、文系の教官は保存について強く賛成の意を表している。

9）各種の事項調査サービスを行う

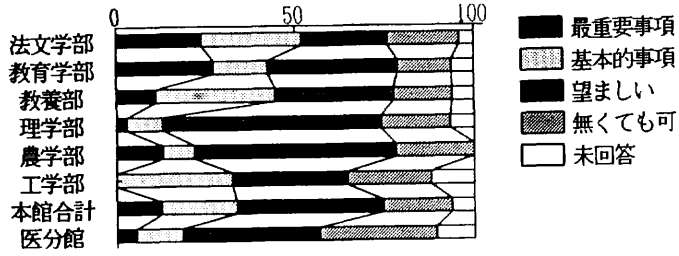
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で17.1%、医分館で11%となっている。本館ではAランクとしているのは学部別で法文学部で28%、教育学部で27.3%であるほかは、すべて10%台となっており、事項調査サービスを望んでいる教官は少ないように思える。



グラフ 26-9

10）特殊コレクションの収集に心がける

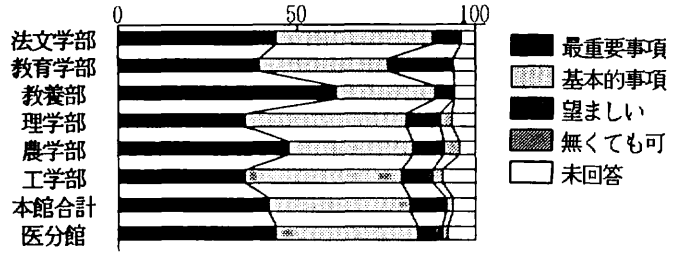
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で12.8%、医分館で5.5%と少ないが、このランクの比率を本館の学部別に見ると、教育学部27.3%、法文学部24%、農学部13%、教養部11.1%、理学部3.1%、工学部0%とバラツキが顕著で特殊コレクションの収集についての学部毎の考え方がかなり違っていることがうかがえる。



グラフ 26-10

11）他の大学図書館などから文献を取り寄せる

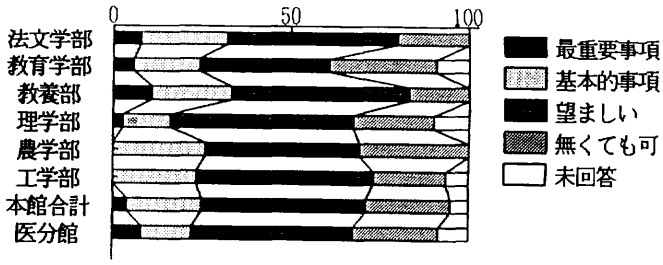
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で42.1%、医分館で44.1%と高い比率となっている。本館の学部別では、教養部が61.1%と突出しているほかは、40%前後に収まっている。



グラフ 26-11

12）音楽CD、ビデオなどAV資料を提供する

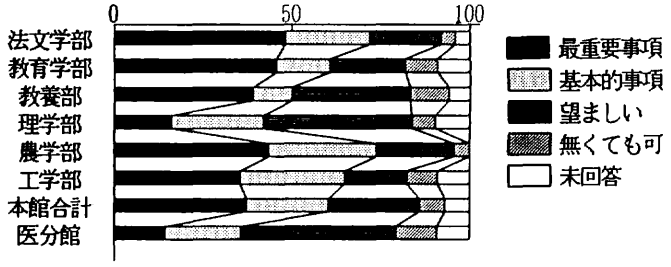
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で4.3%、医分館で8.3%と少ないのと、本館の同ランクの学部別では、農学部と工学部が0%で最高でも教養部が11.1%に留まっており、AV資料の提供にあまり期待をしていないように思える。



グラフ 26-12

13）沖縄関係資料センターとしての役割を持つ

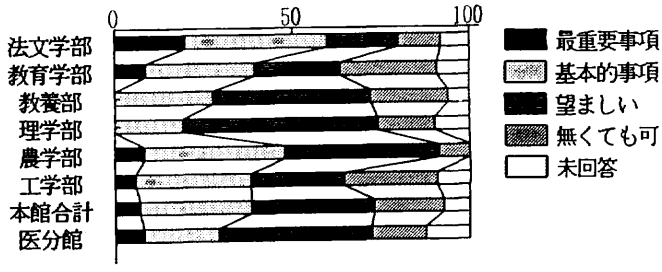
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で37.2%であるのに対し、医分館では14.5%と開きがある。本館では同ランクで理学部が16.1%と医分館の数値に近いほかは、40%～50%の範囲に収まっており、本館が沖縄関係資料センターとしての役割を持つことに対して賛成の意見が多いことがうかがえる。



グラフ 26-13

14）指定図書を別置してサービスする

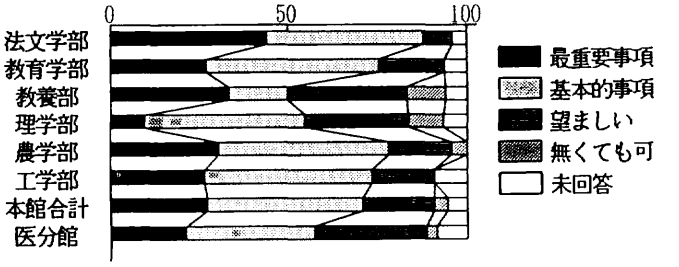
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で7.3%、医分館で8.3%と少ない。本館では同ランクで教養部と理学部が0%で、法文学部が20%であるほかはすべて10%以内で、「基本的なもの」まで含めても本館で38.4%、医分館で29%であり、別置することに賛成する声は少ないように思われる。



グラフ 26-14

１５）参考図書を大幅に充実する

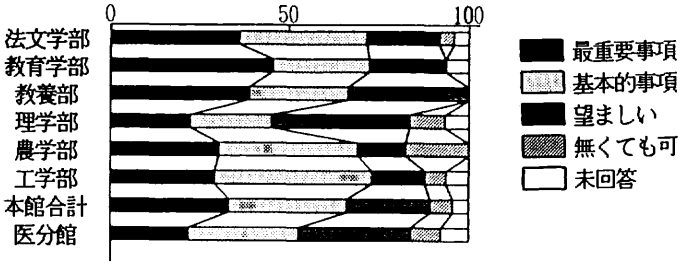
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で27.4%、医分館で21.4%となっている。同ランクを学部別に見ると、法文学部 44%、教養部 33.3%、農学部 30.4%、教育学部 27.3%、工学部 26.5%、理学部 9.7%の順となっている。理学部を除くとすべて医分館より大きな数字となっており、本館の教官のほうが参考図書の充実について望む声が多いと思われる。



グラフ 26-15

１６）研究論文の探索について研究者などの相談にあたる

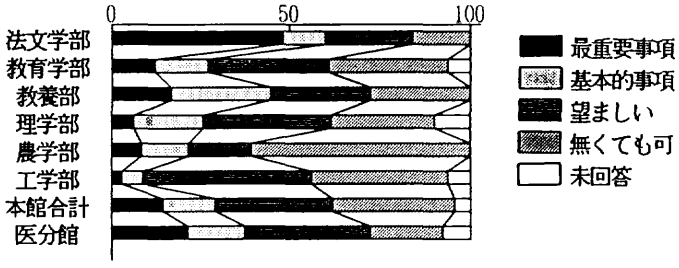
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で33.5%、医分館で22.1%となっている。同ランクを学部別に見ると、教育学部 45.5%、教養部 38.9%、法文学部 36%、農学部 30.4%、工学部 29.4%、理学部 22.6%の順となっており、特に文系の学部が比率が高い。また、本館の学部ではどの学部も医分館より大きな数字となっており、本館の教官のほうが研究論文の探索について望む声が多いと思われる。



グラフ 26-16

１７）深夜（１２時ごろ）まで開館する

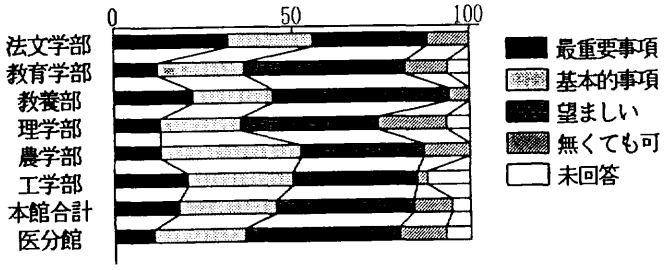
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で14.6%、医分館で21.4%となっている。学部別では、同ランクに法文学部が48%と高い数値を示しているほかは10%前後の低い数値となっており、深夜開館に関しては、医分館に比べ本館では一部に強く望む声があるものの全体としてはそれほど強く望んでいないように思える。



グラフ 26-17

１８）文献・情報に関する電話相談を行う

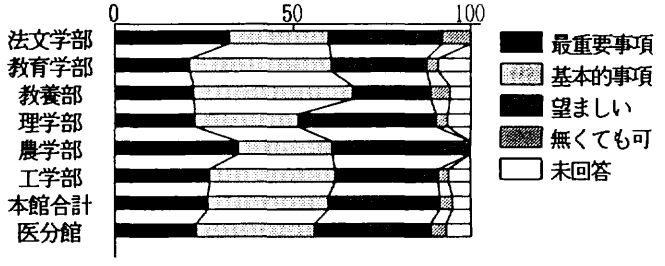
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で18.3%、医分館で11%となっている。学部別では、同ランクに法文学部が32%と比較的高い数値を示しており、次に教養部 22.2%、工学部 20.6%と続き、その他は10%前半の数値となっている。電話相談に関しては、本館の教官のほうが望む声が多いと思われる。



グラフ 26-18

１９）オンライン情報検索の仲介サービスを行う

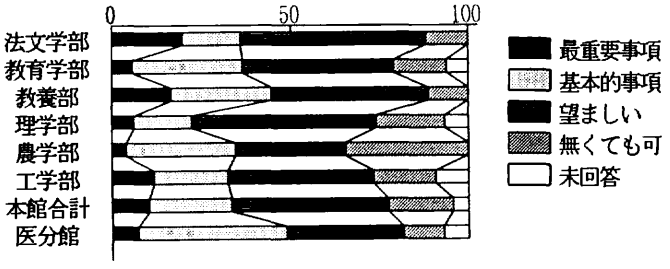
「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で26.2%、医分館で22.8%となっている。学部別では、農学部 34.8%、法文学部が 32%と 30%を超えており、その他も20%を超えている。全体的にバラツキもそれほどなく、2～2.5割程度の人がこのサービスを強く欲している。



グラフ 26-19

２０）セミナー室などの施設機能を提供する

「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で10.4%、医分館で7.6%となっている。学部別では、同ランクで 法文学部 20%、教養部 16.7%、工学部 11.8%と10%を超えているほかはそれより低い数値で、セミナー室などの施設提供について全体的には、要望する声はそれほど多くないように思える。

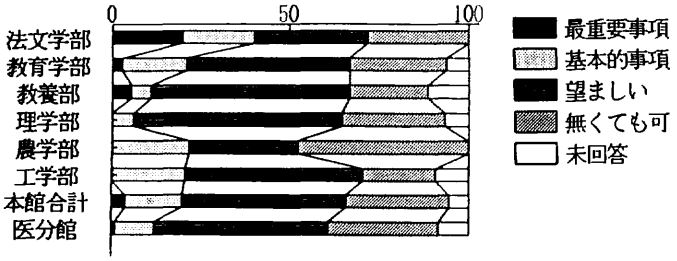


グラフ 26-20

２１）資料等の展示会を行う

「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で4.3%、医分館で1.4%と非常に少ない。学部別では、教養学部が20%であるほかはすべて１ケタ台で、理学部、農学部、工学部は 0%で理系の学部の教官のほうが展示会については関心が薄いよう

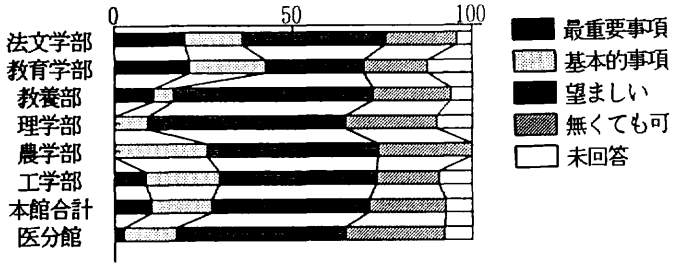
に思える。



グラフ 26-21

２２）沖縄関係文献史料研究会などの活動を行う

「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で10.4%、医分館で2.8%となっている。学部別では、教育学部 21.2%、法文学部 20%、教養部 11.1%、工学部 8.8%、理学部及び農学部 0%となっており、文系の学部の教官のほうが、このような研究会活動に対して熱心であるように思える。

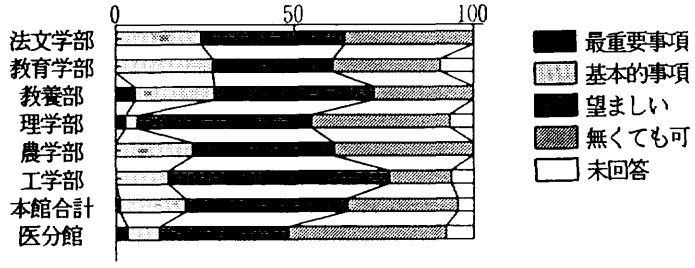


グラフ 26-22

２３）文化講演会、映画鑑賞会などを定期的に行う

「最も重要なもの」と位置づけている人が本館で1.2%、医分館で3.4%となっている。本館の学部別では、最大が教養部の5.6%で次に理学部 1.2%と続き、その他の学部は 0%である。

文化講演会、映画鑑賞会などの開催に関しては、全体としてあまり興味を示していないように思われる。



グラフ 26-23

２７ その他図書館に対する要望等があればお書き下さい。

図書館に関する要望等について、いくつかの項目に集約してまとめたものを以下に示す。

(1)資料に関するもの
- 図書の充実（2名:医分館、1名:本館）
- 沖縄関係資料の充実（2名:医分館、1名:本館）
- 雑誌のバックナンバーの不足（2名:医分館）
- 専門雑誌の充実（1名:本館、医分館）
- 看護に関する本の充実（1名:医分館）
- 教官手持ちのテクニカルレポート、調査報告書、民間の研究報告書等の図書館への提供（1名:本館）

(2)運営（サービス）に関するもの
- 開館時間の延長（8名:医分館、2名:本館）
- 日曜・休日開館（8名:医分館、1名:本館）
- 図書の規則正しい配架と配架点検の励行（5名:本館）
- 図書館利用の説明会の開催（3名:本館）
- 学外所有のカレントコンテンツのコピーサービスの実施（2名:本館）
- 学園祭・開学記念日等学生休日の開館（2名:医分館）
- 新着雑誌の各講座への回覧（2名:医分館）
- 教官用コピー機の増設と利用に際しての手続きの簡略化（2名:本館、1名:医分館）
- 教官に対する図書館利用の手引きの作成（2名:本館）
- 文献複写サービスのスピードアップ化（1名:本館、医分館）
- 文献複写料金の値下げ（1名:医分館）
- 雑誌のバックナンバーの配置場所の不明瞭さの改善（1名:本館）
- 雑誌の分散配置の統一化（1名:本館）
- 雑誌のバックナンバーの背文字の消失の手当（1名:本館）
- ジャーナル書庫のオープン化の拡張（1名:本館）
- 土曜開館を閉館にし、平日サービスの充実を（1名:本館）

(3)情報検索に関するもの
- 学内ＬＡＮを利用した情報検索サービスの２４時間運用（3名:本館）
- 図書・雑誌の検索データの整備と堅実なアップデート（2名:本館）
- ＣＤ－ＲＯＭ関係（1名:医分館）
  検索できるデータベースの種類の拡大
  サービス時間の延長と台数の増強
- オンライン目録検索マニュアルの傷みがはげしい（1名:本館）
- オンライン目録検索システムが使いにくい（1名:本館）
- マッキントッシュ型端末の導入（1名:本館）
- 日本語文献データベースの充実（1名:本館）
- ＵＮ資料、ＥＣ資料等の検索の容易化（1名:本館）

(4)設備に関するもの
- 空調の室温調整の不備（2名:本館）

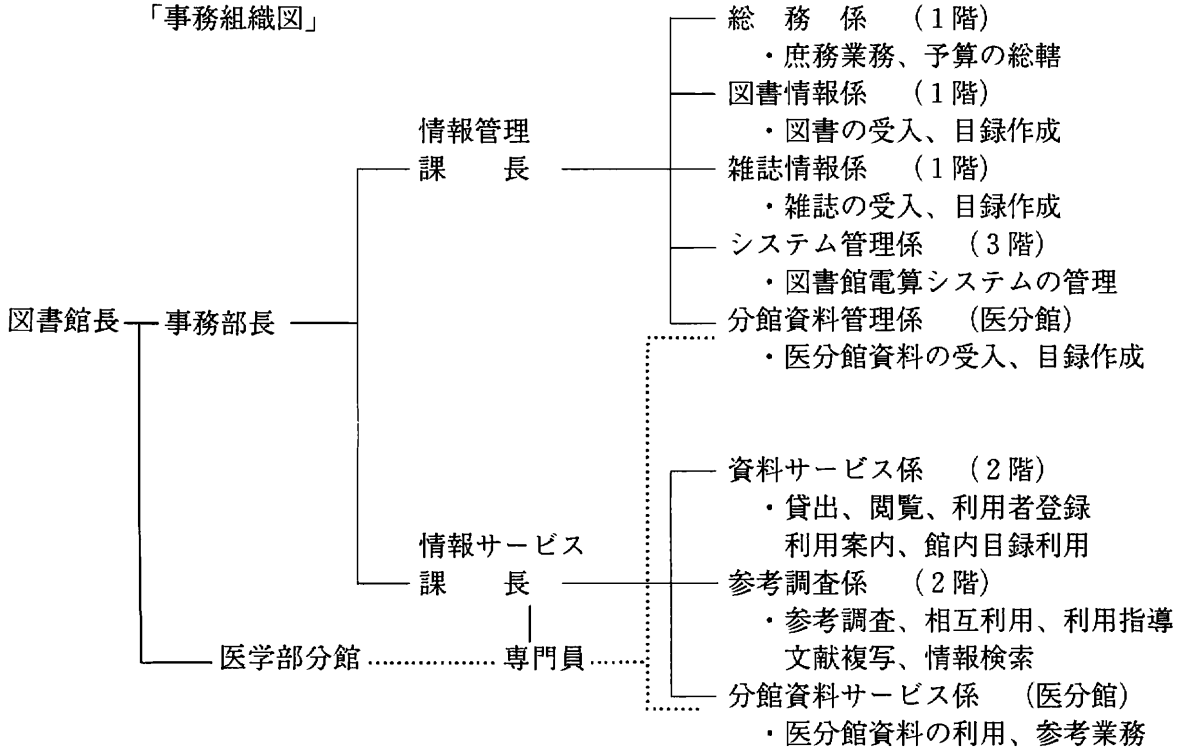
(5)その他
- 全館禁煙に（1名:本館、医分館）
- 図書館職員の接遇態度の改善（1名：本館）
- 図書館職員の好感ある応接態度（1名:本館）
- 図書・雑誌の処分方法を知りたい（1名:医分館）
- 雑誌類の廃棄についての配慮（1名:本館）
- 特殊コレクション整備による一般図書購入費減額化回避への努力（1名:本館）

以上のようなご意見をいただいたが、総括については、次号の学生のアンケート結果の報告にまとめて行う予定である。

附属図書館事務組織の変更について

平成６年４月１日から附属図書館事務組織が変わりました。
事務新組織図は次のとおりです。

「事務組織図」



お知らせ

◎　増築に伴う資料等の移動と休館のお知らせ

本年２月末に竣工しました図書館の増築部分については、既に４月から新館の２、３階の閲覧室を利用に供しておりますが、利用者の少ない夏季休業中に旧館から新館へ図書（53万冊余り）及び書架の移動を計画しております。

つきましては、７月18日(月)～７月30日(土)迄の２週間を全面休館とします。この間、閲覧業務（貸出等を含む）及び相互貸借業務は停止させて頂きます。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いします。

◎　ＣＤ－ＲＯＭサーバーの運用とＯＰＡＣの再開について

CD-ROMサーバーの機器を3月に導入し、館内で仮運用中です。本運用の開始は、学内LANの整備の終了後を予定しています。

また、OPAC は平成４年から休止しておりましたが、再開に向けサーバー機を導入しデータベースを移行構築中です。稼動については次号で詳しく紹介できると思いますので暫くお待ち下さい。

沖縄関係資料新着案内

1994年2月～1994年4月

0類　総　記

1. 琉球新報百年史／琉球新報百年史刊行委員会編　那覇　琉球新報社，1993.9　070.2-RY
2. 久米島新聞 第2集／久米島新聞社［編］縮　刷版　那覇　久米島新聞社，1993.11　071-KU
3. 吉田久一著作集／吉田久一著　東京　川島書店，1993.10　081-YO
4. 琉球国絵図史料集／琉球国絵図史料集編集委員会，沖縄県教育庁文化課編　第2集：再版　宜野湾　榕樹社，1993.2－1993.9　092.9-OK
5. 歴代寶案　校訂本　第4冊／沖縄県立図書館史料編集室編　和田久徳校訂　那覇　沖縄県教育委員会，1992.1－　093.2-RE

1類　哲　学

1. 沖縄と大東世／大尊克治著　沖縄　翔南企画社，1993.7　169-TA

2類　歴　史

1. チャイナシャドウに虹のかかる日／山口芳弘著　沖縄　21世紀沖縄公論発刊室，1993.9　201.18-YA
2. 清代中琉關係檔案選編／中國第一歴史檔案館編 北京 中華書局，1993.4　201.18-CH
3. 上勢頭誌　中巻　通史編　2／上勢頭誌編集委員会編　北谷町（沖縄県）　旧字上勢頭郷友会，1993.9　226-CH
4. 具志頭村史　第3巻／具志頭村史編集委員会編　具志頭村（沖縄県）　具志頭村，1993.5　233-GU
5. 沖縄の英傑・百人の顔／久高則夫編　沖縄　セイケイ新聞社，1987.12　280-OK
6. 流れ雲随想／石垣正二 沖縄［石垣正二］，1989.11　289-IS
7. わが人生：70年の轍／糸洲長勝著［沖縄］，1990.06　289-IT
8. 炎の航跡　奄美復帰の父・泉芳朗の半生／水野修著　徳之島町（鹿児島県）　潮風出版社，1993.4　289-IZ
9. ふるさと追想／小橋川源孝著　［沖縄］，1987.11　289-KO
10. 「ウチナー」見果てぬ夢　宮里栄輝とその時代／宮里一夫著　那覇 ボーダーインク，1994.1　289-MI
11. 立志伝高良光亀／崎原久著　沖縄　沖縄出版社，1988.8　289-SA
12. 私の人生航路／下地ヒロ子著　沖縄　［下地ヒロ子］，1989.10　289-SH
13. 群星のもとに／高嶺善伸著　沖縄　あーまん企画，1990.8　289-TA
14. タイムisタイム　街角の風景から／高嶺晃著　那覇　ボーダーインク，1993.12　290.1-TA
15. ゼンリン住宅地図'94 具志川市 沖縄県，1987.10　290.9-NI
16. シマサバはいて　島軸紀行：異風南島唄共同体／宮里千里著　那覇 ボーダーインク，1993.12　290.9-MI
17. 日本の湖沼と渓谷　東京ぎょうせい，1987.10　290.9-NI
18. 歴史の町並み再発見　九州・沖縄・山口・島根／読売新聞西部本社「学芸資料課」編　福岡　葦書房，1993.9　290.9-YO
19. 離島めぐり15万キロ　[1]／本木修次著　東京　古今書院，1991.2－　290.9-MO
20. 幻の琉球　トカラ列島／尾竹俊亮著　神戸　まろうど社，1993.6　296-OT

3類　社会科学

1. 沖縄の人と心／沖縄心理学会編　福岡　九州大学出版会，1994.1　302-OK
2. 三つのエコロジー／フェリックス・ガタリ

〔著〕　杉村昌昭訳／解説　改訂増補　東京　大村書店，1993.10　304-GU

3．伊江朝雄の大臣日記／伊江朝雄［著］　覇　琉球新報社，1993.10　310.4-IE

4．公文類聚目録　第9／国立公文書館［編］　東京　国立公文書館，1985－　310.9-KO

5．沖縄の日本復帰後20年　第2巻 1977～1980／屋宜宣仁著　那覇　屋宜宣仁，1989－　312-YA

6．沖縄開発庁二十年史／沖縄開発庁編　東京　沖縄開発庁，1993.12　317.2-OK

7．普天間三十周年記念誌／普天間一区自治会［編］　宜野湾　普天間一区自治会，1994.2　318.3-FU

8．沖縄返還をめぐる政治と外交　日米関係史の文脈／河野康子著　東京　東京大学出版会，1994.1　319-KO

9．破防法公判傍聴記　第1巻～第5巻／破防法研究会編集　浅田光輝著　東京　御茶の水書房，1993.11　326.81-HA

10．シマおこしの構図／真栄城守定著　那覇　ひるぎ社，1993.11（おきなわ文庫　67）　332.9-MA

11．出身県でわかる人柄の本　日本人の常識／祖父江孝男著　東京　同文書院，1993.7（快楽脳叢書　48）　361.6-SO

12．更生保護おきなわ　本土復帰20周年記念沖縄県更生保護制度施行35周年記念／「更生保護おきなわ」編集委員会編　那覇　沖縄県更生保護協会，1993.11　369.45-OK

13．農林健児　沖縄戦を生き抜いて／知念正喜編集　［那覇］　県立農林第43期同期生会，1993.10　376.6-OK

14．沖縄久高島のイザイホー／湧上元雄［ほか］著　東京　砂子屋書房，1993.3（弧琉球叢書　2）　385.1-WA

15．沖縄民間説話の研究／丸山顕徳著　東京　勉誠社，1993.10　388-MA

16．社会人類学からみた日本　蒲生正男教授追悼論文集／村武精一大胡欽一編　東京　河出書房新社，1993.9　389-MU

17．見えない戦争　あなたの隣りの「危険」と「軍事」／新藤健一著　東京　情報センター出版局，1993.3　392-SH

18．情報公開法でとらえた沖縄の米軍／梅林宏道著　東京　高文研，1994.2　392-UM

4類　自然科学

1．鹿児島のすぐれた自然／鹿児島県保健環境部環境管理課編　〔鹿児島〕　鹿児島県公害防止協会，1989.3　450-KA

2．いのち輝いて　がんと闘う人々／謝花良広著　那覇　琉球新報社，1993.12　494.5-JA

5類　工　学

1．琉球の住まい　光と影のかたち／福島駿介著　東京　丸善，1993.11（建築探訪　2）　521.9-FU

2．日本の郷土料理　12　九州2・沖縄／石毛直道〔ほか〕編　東京　ぎょうせい，1986－　596-IS

6類　産　業

1．農民のこころ／洲鎌良平著　沖縄　南風原印刷，1990.4　611.59-SU

2．島　：　豊かさへの挑戦／野原徳清著　沖縄，1992.1　611.7-NO

3．地球を救う大変革　食糧・環境・医療の問題がこれで解決する／比嘉照夫著　東京　サンマーク出版，1993.10　615-HI

4．沖縄税理士会30年のあゆみ 資料編，［本編］30周年記念事業特別委員会編集　那覇　沖縄税理士会，1993.12　679.8-OK

7類　芸　術

1．絵と言葉　空虚の中で／金城規克著　那覇　アドバイザー，1993.11　720.4-KI

2．與那覇朝大画集／與那覇朝大著　中城村（沖縄県）：那覇　むぎ社：ギャラリー赤彩（発売），1993.10　720.8-YO

3．アーブージラーのオニたいじ／笠原梢作；

今井弓子絵　東京　草炎社，1993.8(草炎社のえほん 2)　726.7-KA
4. 沖縄空手人名鑑　那覇　沖縄県空手道連合会，1993.12　789.2-OK

8類　語　学

1. 沖縄笑百科／いとみつお著 沖縄 南風社，1993.7　840-IT

9類　文　学

1. 沖縄文芸年鑑　那覇　沖縄タイムス社，1993.12－　905-OK
2. 真玉森　平成4年沖縄年刊合同歌集／沖縄県歌話会著　那覇：中城村（沖縄県）　沖縄県歌話会：むぎ社（発売），1992.12 (年刊合同歌集シリーズ 16)　915-OK
3. 真玉縄　平成5年沖縄年刊合同歌集／沖縄県歌話会著　那覇：中城村（沖縄県）　沖縄県歌話会：むぎ社（発売），1993.11 (年刊合同歌集シリーズ 17)　915-OK
4. 真石子　平成3年沖縄年刊合同歌集／沖縄県歌話会編　那覇：中城村（沖縄県）　沖縄県歌話会：むぎ社（発売），1991.12 (年刊合同歌集シリーズ 15)　915-OK
5. 俳句の旅 9 ： 九州・沖縄　東京　ぎょうせい，1987－1988　916-HA
6. 逆光　石登志夫句集／石登志夫著　那覇　脈発行所，1994.2（沖縄現代俳句文庫 1)　916-IS
7. 佐々木薫詩集／佐々木薫著　那覇　脈発行所，1994.2（沖縄現代詩文庫 10)　917-SA
8. 新城兵一詩集／新城兵一著　那覇　脈発行所，1993.12　917-SH
9. 透明な手紙　第二詩集／阿部雅機著　那覇　[阿部雅機]，1992.3　917-AB
10. 南島風景　詩集／阿部雅機著　那覇　[阿部雅機]，1991.7　917-AB
11. 体温　与那覇幹夫詩集／与那覇幹夫著　神戸　まろうど社，1993.10（まろうど現代詩選書 4)　917-YO
12. 海の山 ： 沖縄の海に関わる人々びとの物語／真名井敦著 沖縄 [真名井敦]，1992.11　930-MA
13. 生存と仮構／新城兵一著 那覇 脈発行所，1993.11　940-SH
14. 負荷と転位／新城兵一著 那覇 脈発行所，1993.10　940-SH
15. 汚名　第二十六代沖縄県知事泉守紀／野里洋著　東京　講談社，1993.12　950-NO
16. 漂泊の人びと／緒方修著　東京：東京　リヨン社：二見書房（発売），1993.10　950-OG
17. がんばれ！赤ちゃんマナティー／田平とし お文　東京　国土社，1993.10 (子どもドキュメント 2)　950-TA

注）各資料末尾の記号は請求記号です。

本学教官著作寄贈図書案内

1994年1月～1994年4月

大城　肇（法文学部）
入門ミクロ経済学／ Hal R. Varian著　；佐藤隆三監訳　勁草書房，1992.10　331-Ta

島袋　鉄男（法文学部）
インサイダー取引規制：アメリカにおける法 理の発展／島袋鉄男著 法律文化社，1994.1　338.16-Sh

木村　政昭（理学部）
こらから起こること：“日本列島”謎の噴火・地震：いつ、どこが危ないかを科学する／　木村政昭著　青春出版社，1994.4　453-Ki

千住　智信（工学部）
リャプノフ直接法による同期機の安定化に関する研究／千住智信著，1994　542.2-Se

注）各資料末尾の記号は請求記号です。

図書館事情

[会　議]

◎図書館運営委員会

第２０３回　平成６年５月２４日（火）

協議事項

(1) 琉球大学附属図書館利用規程の一部改正について

(2) 琉球大学附属図書館多目的ホール使用細則の制定について

(3) その他

報告事項

(1) 琉球大学附属図書館演習室等利用細則の一部改正について

(2) 琉球大学附属図書館研究個室利用細則の一部改正について

(3) 沖縄研究資料調査収集専門委員会委員の交替について

(4) 平成６年度沖縄関係文献資料保存事業計画について

(5) 共通図書費の配分率決定について

(6) 学生用図書の選書依頼について

(7) 第２４回九州地区国立大学図書館協議会について

(8) 第４５回九州地区大学図書館協議会総会について

(9) 平成５年度図書館統計について

(10) その他

・増築部分の閲覧室利用開始について

・増築部分への移転作業について

・ＣＤ－ＲＯＭ検索システムの設置について

・ＯＰＡＣ検索システムの稼働について

[人事異動]

氏　名	現　職	前　職	発令日
宮里　愿	情報サービス課学術情報係長	情報サービス課学術情報係主任	6.1.1
平田　幸男	医学部分館長		6.4.1
末次　驍	情報管理課長	情報サービス課長	
布施　勇	情報サービス課長	東京大学大型計算機センター事務長補佐	
柳瀬　吉雄	情報管理課図書情報係長	情報サービス課参考調査係長	
松原　敏夫	情報管理課雑誌情報係長	情報サービス課閲覧係長	
宮里　愿	情報管理課システム管理係長	情報サービス課学術情報係長	
大城　弘安	情報管理課分館資料管理係長	情報管理課医学部分館整理係長	
豊平　朝美	情報サービス課資料サービス係長	情報管理課整理係長	
金城　照子	情報サービス課参考調査係長	情報サービス課医学部分館閲覧係長	
本郷清次郎	情報サービス課分館資料サービス係長	情報管理課受入係長	
比嘉　達弘	情報管理課総務係主任	工学部会計係主任	
金城眞理子	情報管理課図書情報係	情報管理課整理係	
金城　守	情報管理課図書情報係	情報管理課整理係	
上原　恵美	情報管理課図書情報係	情報管理課受入係	
與儀美津雄	情報管理課雑誌情報係	情報管理課受入係	
金城　真弥	情報管理課システム管理係	情報サービス課学術情報係	
山里　道子	情報サービス課資料サービス係	情報管理課受入係	
岡本　淳子	情報サービス課資料サービス係	情報サービス課閲覧係	
上原　孝	情報サービス課資料サービス係	医学部総務課庶務係	
上原　恵子	情報サービス課参考調査係	情報管理課医学部分館整理係	
本永　順子	情報管理課分館資料管理係	情報管理課整理係	
伊佐　牧子	情報サービス課分館資料サービス係	情報サービス課閲覧係	
赤嶺　久夫	情報サービス課分館資料サービス係	情報サービス課医学部分館閲覧係	
松崎　俊久	任期満了	医学部分館長	6.3.31
香川　一郎	岡山大学附属図書館情報サービス課長	情報管理課長	6.4. 1
大城喜久次	教育学部事務長	情報管理課課長補佐	
内原　厚志	事務局経理課給与係	情報管理課総務係	
潮平　浩俊	教育学部会計係主任	情報管理課受入係主任	

[図書館運営委員会委員名簿]

(平成6年5月1日現在)

部局・職名	氏　名	任　期	部局・職名	氏　名	任　期
図書館館長	永盛　肇	～6.10.31	工学部　助教授	野底　武浩	～8. 3.31
医学部　分館長	平田　幸男	～8. 3.31	助教授	小倉　暢之	～7. 3.31
法文学部　教授	田中　英光	～8. 3.31	農学部　助教授	屋　宏典	～8. 4.30
助教授	宮良　信詳	～7. 3.31	助教授	福仲　憲	～7. 3.31
教育学部　教授	阿波根直誠	～8. 3.31	教養部　助教授	赤嶺　守	～8. 3.31
教授	平良　勉	～7. 3.31	助教授	中村　直	～8. 3.31
理学部　教授	山口　正士	～8. 3.31	短期大学部助教授	赤嶺　政信	～8. 3.31
助教授	伊澤　雅子	～7. 3.31	助教授	福島　良一	～8. 3.31
医学部　教授	今村　禎祐	～6. 9.30	教授	野田　寛	～7. 9.30

医学部分館運営委員会委員名簿

(平成6年4月1日現在)

部局・職名	氏　名	任　期	部局・職名	氏　名	任　期
医学部分館分館長	平田　幸男	～8. 3.31	眼科学　教授	長瀧　重智	～8. 3.31
解剖学第二　教授	安澄　文興	～8. 3.31	保健生物学　教授	今村　禎祐	～6. 9.30
生理学第一　教授	小杉　忠誠	～8. 3.31	看護学2　助教授	伊是名初子	～8. 3.31
耳鼻咽喉科　教授	野田　寛	～7. 9.30	母子保健学助教授	外間登美子	～8. 3.31
内科学第二　教授	高須　信行	～8. 3.31			

沖縄研究資料調査収集専門委員会委員名簿

（平成６年３月１５日）

※　委員長　比屋根照夫

部局・職名	氏　名	任　期	部局・職名	氏　名	任　期
法文学部　教　授	宮城悦二朗	～9. 3.14	工学部　教　授	福島　駿介	～7. 4.29
〃　助教授	我部　政明	～9. 3.14	農学部　教　授	吉田　茂	～8. 9.19
〃　助教授	上里　賢一	～9. 3.14	教養部　教　授	比屋根照夫	～9. 3.14
教育学部　教　授	阿波根直誠	～8. 6.20	〃　教　授	仲程　昌徳	～9. 3.14
〃　助教授	金城須美子	～9. 3.14	〃　教　授	森田　孟進	～9. 3.14
〃　助教授	豊見山和行	～9. 3.14	〃　助教授	前門　晃	～7. 4.29
理学部　助教授	渡久山　章	～8. 9.19	〃　助教授	赤嶺　守	～ 9. 3.14
医学部　教　授	崎原　盛造	～7. 4.29	※　任期は３年間		

医学部分館だより

◎医学部分館長の交替

医学部分館長の任期満了に伴い平成６年４月１日付けで下記のとおり交替がありました。新分館長の任期は平成８年３月３１日までの２年間です。

新分館長　平田幸男（解剖学第一　教授）
前分館長　松崎俊久（保健管理学　教授）

◎オリエンテーション

医学部オリエンテーションが平成６年４月８日（金）に行われ、平成６年度入学の医学部学生約 140人に対し、医学部分館の案内・利用方法等について説明を行った。

また、平成６年５月２６日（木）２７日（金）３０日（月）に、平成６年度入学医学研究科及び保健学研究科学生に対し、二次資料の解説と利用法、CD-ROM検索と文献の入手方法について、約２時間にわたり説明と実施指導を行った。

琉球大学附属図書館報 "びぶりお" 第27巻　第3号（通巻第103号）
平成6年7月発行
発行　琉球大学附属図書館　〒903-01　沖縄県中頭郡西原町千原１番地
電話　098(895)2221　内線（2143）　編集　びぶりお編集委員会